

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	A-135	13-097 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Association between maternal alcohol consumption in early pregnancy and pregnancy outcomes. 妊娠初期における母体飲酒と妊娠転帰との関連		
執筆者		
McCarthy FP, O’Keeffe LM, Khashan AS, North RA, Poston L, McCowan LM, Baker PN, Dekker GA, Roberts CT, Walker JJ, Kenny LC.		
掲載誌		
Obstet Gynecol. 2013 Oct;122(4):830-7. doi: 10.1097/AOG.0b013e3182a6b226.		
キーワード		PMID
母体飲酒、妊娠初期、妊娠転帰		24084541
要 旨		
<p>目的： 本研究の目的は、妊娠前および妊娠初期の飲酒および多量飲酒と、妊娠転帰への悪影響を調査することである。</p> <p>方法： 前向きコホート研究である Screening for Pregnancy Endpoints (SCOPE)研究に参加した初妊婦 5,628 名のデータを用いた。参加者たちは妊娠 15 週目に面接を受け、妊娠前および妊娠中(面接までの期間)における飲酒に関する情報を標準化された質問票を使用して得た。飲酒量は「機会飲酒 (週 1~2 単位)」「少量 (週 3~7 単位)」「中等量 (週 8~14 単位)」「大量 (週 14 単位以上)」に分類された (アルコール 1 単位=純アルコール 8g あるいは 10dL と定義)。一機会につき 6 単位以上の飲酒を過剰飲酒と定義した。</p> <p>結果： 5,628 名の参加者のうち、自己申告による飲酒量は 1,090 名 (19%) が機会飲酒、1,383 名 (25%) が少量飲酒、625 名 (11%) が中等量飲酒、300 名 (5%) が大量飲酒であった。1,905 名 (34%) が妊娠前 3 ヶ月における過剰飲酒を、1,288 名 (23%) が妊娠初期 15 週間における過剰飲酒を申告した。妊娠初期において機会飲酒~大量飲酒のあった参加者の、胎内発育遅延・低出生体重・妊娠中毒症・自然早期産のオッズ比に有意な変化は見られなかった。同様に、妊娠初期において過剰飲酒のあった者もこれらの妊娠転帰のオッズ比に有意な変化は見られなかった</p> <p>結論： この初妊婦のコホート参加者においては、妊娠初期の飲酒は、一般的であった。15 週までの飲酒と、胎内発育遅延・低出生体重・妊娠中毒症・自然早期産の間には関連性は認められなかった。</p>		